魔法少女リリカルなのは　後悔と懺悔と復讐と

勇太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔法少女リリカルなのは　後悔と懺悔と復讐と

【Ｎコード】
Ｎ２０４１Ｘ

【作者名】
勇太

【あらすじ】
ユーノ・スクライア行方不明。それでも少女達は飛び続ける。……ユーノ悪堕ち、アンチ管理局を含む自己満足小説です。嫌な人は回れ右して下さい。
更新は不定期です。

プロローグ（前書き）

はじめまして。勇太と申します。
小説初挑戦です。未熟者ですが頑張ります。

この小説はユーノ悪堕ち、アンチ管理局を含みます。嫌な方は回れ右して下さい。

それでは魔法少女リリカルなのは後悔と懺悔と復讐とプロローグ始まります。

プロローグ

「あははははははははははははははははははははははははははははは！」

突然響いたワライ声に無限書庫の司書達は驚く。

そんなこと関係なくワライ声の主は呟き始める。

「なん…、これ。…れが本……ら何のため……理局は…。……達の欲…か？なら……リエッ……の罪はすべて管理……視下で行われた……なる。なら、なのは……も仕……だのは管理……うことになる」

呟きは小さく、ほとんど聞き取れない。

「会わないと」

そう呟いた後、近くの司書に外出することを告げ出て行った。

それがユーノ・スクライアが目撃された最後になった。高町なのは撃墜から二年後、空港火災から一年前のことだった。

プロローグ（後書き）

こんな感じでユーノ君にはどんどん堕ちて行ってもらいます。
最後には救われるようにしますけど。

それではまた次回会えることを楽しみにしてます。

次回、魔法少女リリカルなのは後悔と懺悔と復讐と
「手伝ってくれへんか？」

「手伝ってくれへんか？」

Ｓｉｄｅなのは

私は今、フェイトちゃんとはやてちゃんとホテルで話会ってる。
昨夜の空港火災でたまたま休暇で近くに行たために救助を手伝った。
それでも救えない人は多くいた。
はやてちゃんはそれが気に入らないらしい。

「今回、救助が遅れたんは地上がもたもたしたけんやで？それやのに報道では地上部隊の迅速な対応により被害は最小限に押さえられた、やで？もっと早よ行動出来たらあそこで死ぬ人は少なかったはずやのに！」
確かにそうだった。
はっきり言って陸の行動は遅い。

「そうだね。もっと早く部隊展開出来るようにならないのかな？」
私やはやてちゃんの意見は海の人間の大半の考えだ。
「やろ？今回のでわたし決めたんや。わたしは自分の部隊を持ちたいと思う。もっと優秀で迅速に行動出来る部隊をな。でな、なのはちゃん、フェイトちゃん、部隊作る時、手伝ってくれへんか？」

「もちろんだよ！ね、フェイトちゃん！」

「そうだね。はやて、わたしも手伝うよ。」

そう答えたわたしたちにはやてちゃんは笑顔を浮かべる。

「おおきにな！じゃあこれから頑張らんとあかんな。」

そう答えて手を取り合うわたしたち。

四年後、機動六課は作られることになる。

「手伝ってくれへんか？」（後書き）

遅い上にかなり短いｏｒｚ

すいません。
次は頑張ります。

次回、魔法少女リリカルなのは後悔と懺悔と復讐と

「これからどうするんだい？」

「これからどうするんだい？」

Ｓｉｄｅユーノ

今、僕は管理外世界でとある人物と会っている。

「はじめまして、ユーノ・スクライア君。」

笑顔を浮かべながらそう話しかけてくるのは次元犯罪者とされているジェイル・スカリエッティだ。

「はじめまして、Ｄｒスカリエッティ。早速ですいませんが質問しても？」

「ああ。構わないよ。私に答えられることならどんなことでも答えよう。ここなら管理局の監視もないしね。」

「では一つ目、あなたが管理局に造られたというのは事実ですか？」

「黙秘だ」

「二つ目、管理局からの指示で戦闘機人などの研究をしているというのは？」

「黙秘だ」

「三つ目、なのはを墜としたのはあなたが作って管理局に卸したものだと言うのは？」

「黙秘だ」

「最後です。余計なことを言わないようにあなたの頭にはいつでも爆破出来るＩＣチップが入っているというのは？」

スカリエッティは一層笑みを深くしながら話す。

「やはり優秀だな。いつかはたどり着くと思っていたが、こんなに早くとは意外だった。」

「つまり、先ほどの質問はすべて肯定だと？」

スカリエッティは笑顔を浮かべるだけで答える。

「やっぱり僕の間違いじゃなかったということか。」

「で？真実を知った君はこれからどうするんだい？」

僕は……。

「これからどうするんだい？」（後書き）

連続更新！

相変わらず短いですけど。次こそはもう少し長く出来るように頑張ります。

次回、魔法少女リリカルなのは後悔と懺悔と復讐と

「皆、よろしくね。」

「皆、よろしくね。」

Ｓｉｄｅなのは

あれから何年かたった。
ユーノ君は見つからない。
それでも時間は流れて今日は、はやてちゃんが望んで作った部隊、機動六課の始動の日だ。

「今日からここにいるメンバーで地上の平和を守って行くことになる。訓練に業務にって大変やと思うけど頑張って行こうな！」

「「「「「はい！」」」」」

今は、はやてちゃんが新人達に檄をとばしてる所だ。新人のメンバーは４人。
皆、未来有望な子達だから教えがいがありそうだ。
冷静で常に周りが見れてるティアナ、無鉄砲な所はあるけどそれをなんとか出来るだけの力の素質があるスバル、あの年でもうＢランクを持ってるエリオ、珍しい竜召喚のスキルとブーストが使えるキャロ。
皆、将来ストライカーになれる子達ばかりだ。
皆が戦場で私みたいにならないようにしっかり訓練しないと！

「で、こっちが皆の教導を担当する高町教官や。ちゃんと言うこと聞いてしっかり訓練するんやで？」

「「「「はい！」」」」

「さ、高町教官こっちに来て挨拶してや。」
「今日から皆の訓練を担当する高町です。皆、よろしくね。」

Ｓｉｄｅ？

「３人ともうまく潜入出来たみたいだね。」
「はい。兄さん。」
「うん。じゃあこれから気をつけてね。いろいろ大変だと思うけど、頑張って。」
「はい。また何かあったらわたしか〇〇〇から連絡します。あ、姉さん達にもよろしくって伝えてもらえますか？」
「うん。わかった。じゃあまたね。」

兄さんへの連絡を終えて一息つく。
機動六課に潜入したのは私ともう２人。
正直もう少し苦労するかと思ったけど、拍子抜けするくらい簡単だった。
私が所属しているのは反管理局組織のアロウズだ。
兄さんに会わなかったら関わることなんてなかったはずの組織だ。
アロウズの由来は管理局に弓引く者達という意味らしい。
私は兄さんに会って管理局の正体を知った。
許せなかった。

だからアロウズに所属し、管理局と敵対する道を選んだ。
あの子もあの人もそうらしい。

「すべてを管理局から救うために。」

アロウズの合言葉を呟いてから眠りについた。

「皆、よろしくね。」（後書き）

遅くなってすいません？

3人ほど潜入者を入れました。
誰か分からないようにしたつもりですけど、一人は分かりますかね？

今回はフラグをいくつか入れたつもりです。
次回も読んでいただけると嬉しいです。

次回、魔法少女リリカルなのは後悔と懺悔と復讐と
「ようこそ！アロウズへ！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2041x/

魔法少女リリカルなのは　　後悔と懺悔と復讐と

2011年11月6日03時17分発行